

世帯と人口

(1月1日現在)

世帯	42,928	(+24)
人口	117,347人	(+48)
男	60,158人	(+9)
女	57,189人	(+39)

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231-2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。



▲わかば作業所で行われた大谷中学校PTA主催のもちつき大会。「よいしょ」のかけ声と共に笑顔が…

21世紀へ前進する海老名⑬

ボランティアの輪 広がる



▲多くの参加者でにぎわったもちつき大会

「星谷会」は、杉久保にある星谷学園を中心に行なわれている。市内4カ所の作業所（わかば・わかば第二・あきば第一・あきば第二）などを拠点として障害者の社会への融和を目指している団体です。具体的な援助活動としては、一般就労の機会が得がたいケースが多いことから、手芸、軽作業、業者からの委託作業などをを行い、障害者の自立を図ることとともに生きがいを高めています。

学園には、自宅から通う通所者と施設内で生活している入所者が63人おり、これらの方を援助するため、非常勤職員、嘱託の医師を含め36人のスタッフがいます。しかし、このスタッフだけでは十分な援助が可能なわけではなく、実際は多くのボランティアに支えられながら施設は運営されています。

開かれた施設として多くの人たちに見学や体験をしてもらうことによって学園の現状を知っていただきたいと思っています。という学園の安藤施設長やスタッフの考え方で、学園や作業所では祭りや陶芸教室などさまざまな企画・催しを積極的に開催し、地域の人たちとの交流を深めています。こうした成果で、洗濯や施設清掃など自分たちの生活に支障無くできるボランティア活動を行う人たちが増えていました。また、地元自治会の協力による避難訓練、市内の中学生との交流なども行われています。現在、会では、社会福祉協議会との連携によるボランティア講座の開講や専門学校生の実習、中学生の体験学習なども積極的に受け入れ、ボランティアのすそ野をさらに広げています。

一方、一般社会と同じフィールドで生活している、ボランティアのすそ野をさらに広げています。

地域社会の中にある住民のパートや一戸建などでの生活を営みながら、市内の作業所に通っている、ボランティアのすそ野をさらに広げています。

「今後は、区切られた地域社会だけではなく、より広い社会への融和を目指していく。障害をもつている人たちが、ボランティアとの交流や生活ホームなどの体験を生かして、社会の人たちと交流を深めながらあらあらまえに暮らすことが理であり実現していかなければならぬ課題なんですね。そのためにはなによりも、みんなさんの理解と協力が必要です」と安藤施設長は語ってくれました。

知的にハンディキャップを持つ方たちと、地域のみなさんが互いに理解し、交流を通して生きる喜びを分かち合う。今回、そうした社会の実現を目指し活動を続けている社会福祉法人「星谷会」を紹介します。

交流深め共に生きる社会へ



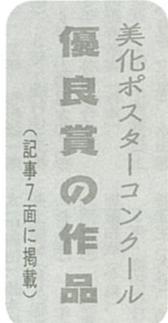
▼門沢橋小学校1年
神部由貴子さんの作品



▲岡本小学校6年
岡野麻奈美さんの作品



▲今泉小学校5年
小林留美さんの作品



(記事7面に掲載)



▲海老名小学校2年
杉坂雄一郎さんの作品



▲海老名小学校3年
藤村佳苗さんの作品



▲岡本小学校4年
土屋勇太郎さんの作品

※「まんまる赤ちゃん」は休みます。



▲**ジャンボ絵札にダッシュ!**
新春恒例の「ジャンボかるた大会」。海老名の歴史・伝説をうたった「郷土かるた」のジャンボ判を目指して、参加した子どもたちはグラウンド内を駆け回っていました。
(1月7日、柏ヶ谷小学校)

今月のプロフィル

全国ジュニアラグビー
交流競技大会に出場
たけし
武田



この九州チームとは予選第2試合で対戦、武田さんは持ち前の持久力を生かし、フットボールというポジションで全力を尽しましたが、結果は惜敗。そのことが一番悔しかったそうです。

負けず嫌いの武田さんがラグビーフットボールを始めたのは小学校1年生のとき。お父さんに連れられて市内のクラブチームに入ったのがきっかけでした。以来、毎日ごとに3時間の練習を重ね、毎年行う12回程度の試合を通じて、ゲームのおもしろさと奥の深さを知りました。

「チームプレーなので、自分に与えられた課題は次の練習日までに克服しておきたい」と武田さん。そのため、グラウンドでの練習後、自宅に帰つてからも筋肉トレーニングを行っていますが、苦にはならないとのことです。

「試合を通してライバル兼友達がたくさんできました」と手に伝わる弾力に思わず笑みが…。つきたてのおも

主催者のご厚意で、初めてもらをつかせてもらいました。ずりりと重たい片でもちつつくと、「また」の音

今回の1面取材のとき、古事記集後記「古事記」と手に伝わる弾力に思わず笑みが…。つきたてのおもい未来ではなさそうです。

大学生や社会人になつてもラグビーフットボールは続けたい」——武田さんが再度花園の土を踏む日も、そう遠い未来ではなさそうです。

「試合を通してライバル兼友達がたくさんできました」と手に伝わる弾力に思わず笑みが…。つきたてのおもい未来ではなさそうです。

大学生や社会人になつてもラグビーフットボールは続けたい」——武田さんが再度花園の土を踏む日も、そう遠い未来ではなさそうです。



▲これ、本当に造花?

高齢者の方を対象に開講中の「アートフラワー教室」。この日シルクを使ってカーネーション作りに挑戦した参加者は、造花とは思えないその出来栄えに大満足。

(1月11日、市役所会議室)



▶2000年成人式に977人

今年から1月の第2月曜日となった成人の日。この日行われた成人の会場は、20歳の節目を迎えた大勢の若者の熱気で包まれていました。

(1月10日、文化会館)



消防署・消防分団・各事業所自衛消防隊などが参加した消防出初式。消防士や分団員の演技からは、火災を許さない決意が感じられました。

いよいよ決意が感じられました。

（1月14日、市役所催事広場）

◀年の始めに防火の決意

最初は緊張しましたが、試合を重ねていくうちに自分のプレーに自信がついてきました」と話すのは、武田武さん（15歳、国分北在住）。武田さんは1月初旬、第5回全国ジュニアラグビー交流競技大会に、神奈川県選抜チームの一員として出場。あれが花園ラグビー場（大阪府）の土を踏みました。同競技大会には、関東、関西、九州地方の各ラグビー

フットボール協会から推薦された中学生による18チームが出場し、好試合を繰り広げた結果、神奈川県選抜チームは3勝1敗で総合2位にあたる成績を残しました。武田さんが最も印象に残ったのは、対九州選抜チーム戦。「以前から強いチームなので、花園に行く前から意識はしていました」

花園で全力尽くした！